

韓国のサイエンスパークと日本との連携

2008. 11

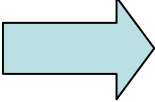
金京洙

(大韓民国大使館 公使参事官)

目次

1. 韓国経済の現状と発展方向
2. 韓国のサイエンスパーク
3. 韓国政府の政策方向
4. 海外との交流と協力の拡大

1. 韓国経済の現状と発展方向

- 労働集約産業、資本集約産業  技術集約産業
 - 国内発展環境の変化
 - 国際発展環境の変化
- Innovation systemの進歩が極めて重要
 - 企業、公共部門、大学の連携
 - 海外との交流によるopen&network innovation
- 韓国の周辺国との緊密な交流と協力

2. 韓国のサイエンスパーク: Dae Deok Innopolisの発展経過

(1) 発展process

- 1970年代～2005年:研究団地としての基盤作り
 - 政府主導の基本計画と法律の成立(1973)
 - 政府系研究機関の集積
 - Infra整備等の計3兆円程の投資執行
- 2005年以來:研究と産業団地が結合されinnopolisへの転換
 - 特別法の成立
 - 民間系企業研究所、工場の集積が本格化

(2) Dae Deok Innopolisの現状

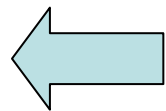
- Innopolisに集積された組織
 - 政府系研究所: 70個
 - 大学数: 6個
 - 企業数: 800余
- 民間企業の関心は高まりつつある
 - 民間企業の研究所: 2006年以降7ヶ所増加
 - 海外企業の研究R&Dセンター: 6ヶ所
- パーク内の研究人材とR&D
 - PhD人材 6,800名/Master人材 7,600名
 - 毎年国家R&Dの35%を配分する

(3) Innopolisの成果

- 特許(2007基準)
 - 国内特許:出願46,355件、登録29,193件
—2005年から産学連携政策以来、
国内特許は5,000件以上の増加
 - 海外特許:出願17,893件、登録5,978件
- 特許技術移転:815件(CDMA技術など)
- ベンチャー創業からIPOに成功した企業数:19個

(4)重点分野

- ① IT分野: CDMA, WiBro等
- ② BioTech分野: 癌研究、新薬研究など
- ③ NanoTech分野: 半導体、OLED、炭素tube等
- ④ Aero Space tech分野: 人工衛星技術等
- ⑤ Energy環境,Tech分野: 原子力技術等



先端技術創業のためにVenture fund
80億円運用 : 増資の方針

3. 韓国政府の政策方向

(1) 現状の分析

- 2005年から産業、研究機関複合型のサイエンスパーク造成を目指す
 - 地域別の産業造成政策も展開する
- Dae Deok Innopolisの現状の診断
 - High-quality technologyの不足
 - 研究—開発—創業、事業化への進化system構築の遅れ
 - 産、学、研の連携systemの非効率

(2)サイエンスパークの目標と政策手段

- 先端研究開発、商業化及びビジネスの成長
 - Open&Network型 innovationの追求
- 展開中の政策措置（中央と地方政府）
 - 核心技術の開発技術移転および商業化の支援
 - 企業創業および成長支援の強化
 - 研究施設などInfraの持続拡充
 - 政府系研究所の技術資産の積極的な活用
 - Open研究network の強化
（産、学、研Net, 国内と海外）

4. 海外との交流と協力の拡大

(1) 主要国際協力

- 2010年IASP(国際サイエンスパーク世界総会)開催
 - ・ 70か国余参加を予想
- Daedok Innopolis国際Conferenceの定期開催
- 海外サイエンスパークとの協力基盤の拡大
 - ・ フランスSophia Antipolisなど15ヶ国との交流
- 海外民間企業の進出促進

(2) 日本との協力拡大に向けて

- 韓国経済と日本経済との協力関係の深さ
 - ・ 一方的関係から相互Win-win関係への進化
- 関西地域産業は韓国産業と『競争と協力』という両側面を保有する
 - ・ しかし、新技術領域では協力の可能性が大きい
- 両国のサイエンスパークが追求するopen innovationは相互に研究開発の効率性・生産性を高める
 - ・ サイエンスパーク間の定期交流と技術symposium開催が望ましい